

【キルギス共和国での国際協力最前線】

私、佐藤俊郎は現在 JICA の「キルギス共和国日本センター人材開発プロジェクト」に業務調整員として従事しております。

赴任したのが 2008 年 9 月中旬ですから、3 月 30 日で 6 ヶ月強が過ぎたこととなります。

まず、添付している写真について紹介しましょう。

<右上の写真>これは僕が配属されているプロジェクトのカウンターパート (CP) ⁱの大学です。大学名はキルギス民族大学といい、総合大学です。プロジェクトの事務所はこの CP に近いところにあり、昼夜を通して日本とキルギスの架け橋になれるよう頑張っております。私の主な業務内容はプロジェクトの運営と相互理解促進事業の実施です。

<右 2 番目の写真>民族衣装で伝統的な民族舞踊を踊るキルギスの女性たちです。日本人と顔立ちが似ていることもあり、親近感を覚えます。キルギスはイスラム圏ということもあって、その戒律の元で生活を営んでいますが、サウジアラビア等の戒律の厳しい国に比べ、幾分緩和されている感があります。国民はのんびりしており、人生を楽しむ術を心得ているかのようです。

<右 3 番目の写真>これは世界的に有名なイシクル湖 (淡水湖) です。キルギスがまだソ連に組み込まれていた時代、この湖には共産党の特権階級だけが入水できたそうです。今は庶民に解放されており、誰でも水泳を楽しむことができます。特に夏場がイシクル湖の観光季節で、大勢のキルギス人が大挙して押し寄せます。僕も泳いだことありますが、水は大変冷たかったと記憶しています。

<右一番下の写真>これは 2008 年末、プロジェクトの現地職員と一緒に開いた忘年会のときのものです。左端にいるのが僕です。日々の業務をとおして、ひたすら成果、効率、効果、持続性を追求し結果を出すことが求められており、少しでも効率よく成果が出るよう努力している次第です。毎日、国際協力事業の促進のため、まじめに取り組んでおります。

俗にこの国は「中央アジアのスイス」と言われています。それは山岳国家であり、スイスと同じくらいの標高と面積を持ち、人口を持つからです。

それに、空気は特別きれいです。

キルギスの主な産業は「観光」と「はちみつ」で、特に「はちみつ」は高純度で品質も高いです。日本へも輸出されています。

もう一つ良いことは、アフリカ等の途上国にありがちな「風土病」がない事です。ですから赴任前の予防接種は一切ありません。

これがキルギスです。

昔あった「テロリストの国」といった印象はまったくありません。本当に良い国です。

皆さん、お時間があったら、是非いらしてください！



ⁱ 一緒にプロジェクトを行う現地スタッフ